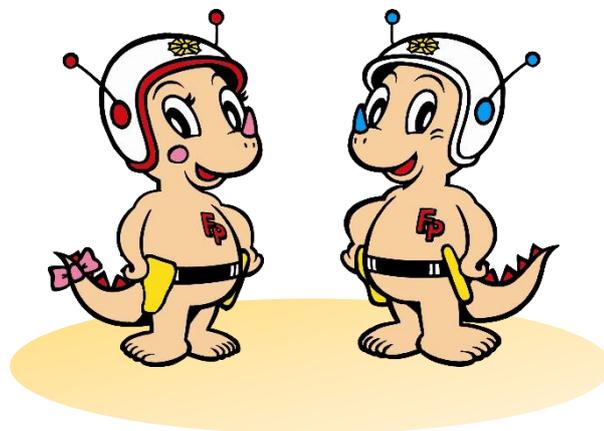


福井県の治安情勢 [7月末現在]

(令和6年7月末数値は暫定のものを含む。)



令和6年8月23日「福井フェニックス花火に伴う雑踏警備」



— 福井県警察 —

1 刑法犯

(1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は1,611件で、前年同期に比べて37件(2.2%)減少

検挙件数は1,173件で、前年同期に比べて319件(37.4%)増加

検挙率は72.8%で、前年同期に比べて21.0ポイント上昇

		R3	R4	R5	R6.7末
福井	認知件数(件)	2,714	2,664	2,840	1,611 (-37)
	検挙件数(件)	2,119	1,799	1,631	1,173 (+319)
	検挙人員(人)	1,100	1,051	1,183	702 (+102)
	検挙率(%)	78.1	67.5	57.4	72.8 (+21.0)
全国	認知件数(件)	568,104	601,331	703,351	418,107 (+24,415)
	検挙件数(件)	264,485	250,350	269,550	157,711 (+11,443)
	検挙人員(人)	175,041	169,409	183,269	107,074 (+6,794)
	検挙率(%)	46.6	41.6	38.3	37.7 (+0.5)

※1 表中の()内の数字は、前年同期比(以下同じ。)

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数(当該年の前年以前の認知事件の検挙を含む。)の割合

(2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は51件で、前年同期に比べて23件(82.1%)増加

検挙件数は49件で、前年同期に比べて25件(104.2%)増加

【認知件数】

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.7末
殺人	3	5	6	2(-1)
強盗	1	1	2	4(+2)
放火	2	2	3	2(+1)
不同意性交等	13	7	10	27(+23)
略取・誘拐	3	2	0	3(+3)
不同意わいせつ	22	11	29	13(-5)
合計	44	28	50	51(+23)

【検挙件数】

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.7末
殺人	4	5	6	2(-1)
強盗	1	1	1	5(+5)
放火	2	2	3	2(+1)
不同意性交等	13	7	10	26(+22)
略取・誘拐	3	2	0	2(+2)
不同意わいせつ	22	12	28	12(-4)
合計	45	29	48	49(+25)

(3) 防止重点8罪種の認知件数

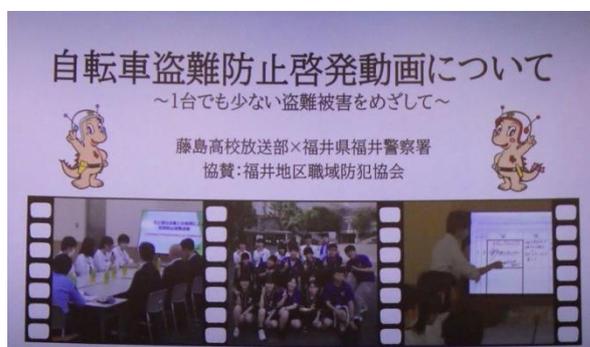
認知件数は890件で、前年同期に比べて76件（7.9%）減少

（単位：件）

	R3	R4	R5	R6.7末
車上ねらい	123	160	81	108(+ 62)
自転車盗	293	310	542	232(-129)
万引き	443	562	513	336(+ 58)
置引き	114	142	143	62(- 18)
器物損壊	220	156	206	90(- 27)
空き巣	53	43	58	23(- 13)
忍込み	252	20	20	23(+ 8)
住居侵入	51	61	55	16(- 17)
合計	1,549	1,454	1,618	890(- 76)

(4) 主な施策

- 事業所の従業員やその家族に犯罪等に関する情報を発信する取組である「福井防犯力向上チャレンジ事業所」の募集活動の推進
- 万引き被害防止に向けて量販店と連携した対策会議の開催
- 県内高校・関係機関・団体と連携した、自転車盗難防止啓発動画の作成による防犯広報
- 防犯ボランティア等と連携した、海水浴シーズンにおける車上ねらい等の犯罪被害防止に向けた広報啓発活動
- 防犯ボランティア等と連携した、グレーチング盗等の金属盗の被害防止に向けた街頭パトロールの実施



県内高校と連携した
自転車盗難防止啓発動画の作成



防犯ボランティアと連携した
海水浴場における広報啓発活動

2 子どもを犯罪から守る対策

(1) 子どもに対する声掛け事案等

ア 相談等件数

相談等件数は 98 件で、前年同期に比べ 8 件 (8.9%) 増加 (単位: 件)

	R3	R4	R5	R6.7 末
小学生以下	100	55	63	44(+14)
中学生	55	41	45	23(+ 1)
高校生	60	56	53	30(- 5)
その他	3	1	5	1(- 2)
合計	218	153	166	98(+ 8)

※ 声掛け事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声掛け、つきまとい等をいう。

イ 先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は 65 件で、前年同期に比べて 22 件 (51.2%) 増加

(単位: 件)

	R3	R4	R5	R6.7 末
検挙	22	16	33	25(+20)
指導・警告	83	69	68	40(+ 2)
合計	105	85	101	65(+22)

ウ 主な施策

- 「秋の子供安全対策推進期間」において、防犯ボランティア等と連携した見守り活動や、防犯アプリ「ふくいポリス」による不審者情報等のタイムリーな発信など被害防止活動を推進
- 子どもの危険回避能力向上のため、小学校等で防犯教室や不審者対応訓練を実施
- 声掛け事案等の行為者を早期に特定し、検挙、指導・警告等の先制・予防的活動を推進
- 夏休み期間中における子どもの SNS 等を使用した犯罪の被害防止を目的とした被害防止教室を実施



防犯ボランティア団体との
下校時の見守り活動



福井ユナイテッドFCのU-15 (15歳以下)
選手に対する被害防止教室

(2) 児童虐待事案の認知対応状況

ア 認知対応件数等

認知対応件数は 265 件で、前年同期に比べて 65 件（19.7%）減少

児童通告人員は 262 人で、前年同期に比べて 11 人（4.0%）減少

検挙件数は 14 件で、前年同期に比べて 4 件（40.0%）増加

		R3	R4	R5	R6.7 末
認知対応件数（件）		547	521	528	265(-65)
児童通告	人員（人）	608	539	449	262(-11)
	身体的	60	59	59	24(-10)
	性的	4	0	2	1(±0)
	初外	26	16	31	15(-5)
	心理的	518	464	357	222(+4)
	うち面前DV	346	333	260	167(+9)
検挙件数（件）		33	17	21	14(+4)

イ 主な施策

- 児童相談所との 24 時間体制による情報共有と確実な児童通告の実施
- 児童虐待事案における連携を強化するため、児童相談所との連絡会を実施
- 児童虐待の態様別に動画を作成し、SNSで情報発信するなど、虐待防止に向けた広報啓発活動を推進
- 福井県遊技業協同組合と連携し、県内パチンコ店の店頭等に児童の車内放置防止に向けたチラシを掲示



県内パチンコ店駐車場における児童の車内放置防止に向けたチラシを掲示



心理的虐待防止（面前DV）に向けた広報啓発動画の一コマ

3 非行少年を生まない社会づくり

(1) 非行少年の推移

検挙・補導した非行少年は134人で、前年同期に比べて41人(44.1%)増加

(単位：人)

	R3	R4	R5	R6.7末
犯罪少年	74	82	168	118(+46)
触法少年	24	19	40	16(-4)
く犯少年	0	0	1	0(-1)
非行少年総数	98	101	209	134(+41)

(2) 主な施策

- 防犯アプリ「ふくいポリス」や県のメールマガジンを活用して、薬物乱用防止や犯罪実行者募集情報(いわゆる「闇バイト」)の危険性についての広報啓発を実施
- すべての児童、生徒に内容が行き渡るよう、学校と連携した小・中・高校生に対する非行防止教室の開催
- 少年が多く集まる祭礼会場において、ひまわり号(薬物乱用防止広報車)を臨時相談室として活用しながら、ボランティア団体と連携した少年補導活動を実施



犯罪実行者募集情報の注意喚起チラシ



ボランティア団体と連携した少年補導活動

4 女性を犯罪から守る対策

(1) 女性が被害者となる犯罪の認知・検挙件数

認知件数は99件で、前年同期に比べて2件(2.0%)減少

検挙件数は89件で、前年同期に比べて3件(3.3%)減少

(単位：件)

	R3		R4		R5		R6.7末	
	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙
不同意性交等	13	13	7	7	10	10	10(+6)	9(+5)
不同意わいせつ	22	22	11	12	29	28	7(-11)	6(-10)
略取誘拐・人身売買	2	2	1	1	0	0	3(+3)	2(+2)
暴行	117	118	117	116	103	104	55(+5)	52(+5)
傷害	34	37	24	24	40	40	24(-5)	20(-5)
合計	188	192	160	160	182	182	99(-2)	89(-3)

(2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は54件で、前年同期に比べて4件(6.9%)減少

検挙件数は15件で、前年同期に比べて5件(25.0%)減少

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.7末
相談等	130	122	90	54(-4)
検挙	37	20	31	15(-5)
禁止命令・警告	64	42	37	30(+10)

(3) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は136件で、前年同期に比べて39件(40.2%)増加

検挙件数は52件で、前年同期に比べて12件(30.0%)増加

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.7末
相談等	236	190	203	136(+39)
検挙	99	80	112	52(+12)
保護命令	9	3	6	4(±0)
警告	109	85	88	53(+3)

(4) 主な施策

- ストーカー・DV事案に係る被害者の迅速な安全確保と行為者に対する指導・警告、検挙措置の徹底
- 精神科医やカウンセラーと連携し、ストーカー行為者に対して、治療に関する助言を行うなど、行為者の更生を支援(R6.7末:12件実施)
- 「レディース・ガードリーダー」と連携し、大学において女子学生の防犯力向上のための防犯講座を実施するとともに、防犯アプリ「ふくいポリス」の加入を促進
- 競技会場におけるアスリート盗撮防止のため、関係機関と連携して会場内の警戒を強化するとともに、広報啓発を実施



敦賀市立看護大学の学生への防犯講習



大型ビジョンを活用したアスリート盗撮防止に向けた注意喚起

5 特殊詐欺対策

(1) 特殊詐欺の認知件数及び被害額（※ 被害額の千円未満は四捨五入）

- ・ 特殊詐欺の認知件数は11件で、前年同期に比べて3件（21.4%）減少
- ・ 被害金額は約5,954万2千円で、前年同期に比べて約3,940万4千円（195.7%）増加

【被害の特徴】

- ① 被害者は、65歳以上の高齢者の割合が多い（11件中8件、72.7%）
- ② 手口別では、キャッシュカード詐欺盗が多い（11件中4件、36.4%）
- ③ 交付形態別では、「振込型」2件、「現金送付型」1件、「現金手交型」2件、「電子マネー型」1件、「キャッシュカード手交型」1件、「キャッシュカード窃取型」4件

	R3		R4		R5		R6.7末	
	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)
オレオレ	0	0	3	7,000	7	19,080	3(-1)	2,380(-5,700)
預貯金	5	6,076	8	5,315	5	14,892	1(±0)	1,493(+493)
架空料金請求	6	59,398	10	12,558	14	24,284	3(-4)	52,540(+43,072)
還付金	12	8,999	3	2,291	2	995	0(-1)	0(-499)
キャッシュカード詐欺盗	4	3,420	2	2,500	1	1,091	4(+3)	3,129(+2,038)
合計	27	77,893	26	29,664	29	60,342	11(-3)	59,542(+39,404)

※ 近年県内で発生している手口のみ記載

※ 預貯金詐欺とは、親族や警察官、銀行協会職員等を装い、口座が犯罪に利用されているなどと騙って、交換手続き名目でキャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの。

※ キャッシュカード詐欺盗とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。

(2) 検挙状況（助長犯罪※を含む。）

検挙人員は18人で、前年同期に比べて8人（30.8%）減少

	R3	R4	R5	R6.7末
検挙件数（件）	40	57	64	24(-17)
検挙人員（人）	31	33	43	18(-8)

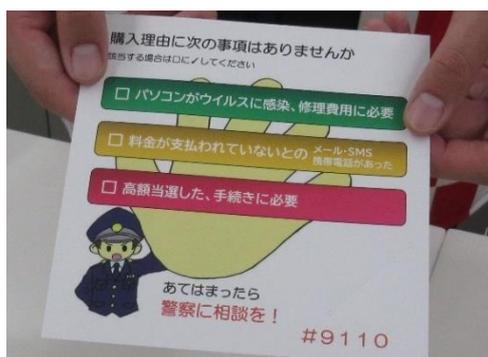
※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

(3) 主な施策

プロジェクトチームによる被害防止と検挙を両輪とした対策を推進

ア 被害防止対策

- 国際電話使用休止サービスや、通信事業者が行う番号非通知着信拒否サービス等、固定電話による被害を防止するためのハード対策の促進
- 特殊詐欺被害防止コールセンターを活用した啓発や予兆電話発生地域に対する集中架電による注意喚起
- 現役世代を含めた幅広い世代の被害を防止するため、「福井防犯力向上チャレンジ事業所」(再掲)を募集し、情報提供・広報啓発を実施
- 電子マネー詐欺被害の防止に向けた、コンビニエンスストアに対する「ダミーカード」設置の働きかけと「チェックシート」の配布
- 予兆電話認知時等における防犯アプリ「ふくいポリス」等による情報発信
- 福井県民生委員・児童委員協議会総会研修会での防犯研修など、協力団体と連携した被害防止活動の推進



コンビニエンスストアと連携した未然防止対策
(電子マネー購入者向けの「チェックシート」の配布)



金融機関や防犯団体等と連携した広報啓発
(公的年金支給日における被害防止広報)

イ 検挙対策

- 県内に流入する受取役被疑者の徹底検挙
- 全国の特種詐欺連合捜査班との連携による犯行グループの壊滅に向けた取締り
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行ツールの無力化対策の推進

6 SNS型投資・ロマンス詐欺対策

(1) SNS型投資・ロマンス詐欺の発生件数及び被害額(※ 被害額の千円未満は四捨五入)

SNS型投資・ロマンス詐欺とは、SNS等を通じて対面することなく、交信を重ねるなどして信用させ、金銭をだまし取るもので、被害相談を含む発生件数は123件、被害金額は約8億4,528万円7千円

【被害の特徴】

- ① 被害者は、60歳代が最も多いが、特殊詐欺に比べ幅広い世代が被害に遭っている
- ② 被害のきっかけは、「SNS」70件、「ウェブサイト」27件、「マッチングアプリ」21件、その他5件
- ③ 交付形態別では、「振込」95件、「暗号資産」21件、「現金手交」2件、その他5件

	R5		R6.7 末	
	件数(件)	被害額(千円)	件数(件)	被害額(千円)
投資詐欺	131	1,111,357	96(+41)	673,576 (+333,292)
ロマンス詐欺	15	130,933	27(+22)	171,711 (+77,378)
合計	146	1,242,290	123(+63)	845,287 (+410,670)

※ 件数及び被害額は被害相談を含む

(2) 検挙状況

	R5	R6.7 末
検挙件数(件)	0	2(+2)
検挙人員(人)	0	2(+2)

(3) 主な施策

プロジェクトチームを中心に総合的な被害防止対策及び検挙対策を推進

ア 被害防止対策

- 防犯アプリ「ふくいポリス」の活用や、「福井防犯力向上チャレンジ事業所」(再掲)の募集による現役世代を含めた幅広い世代に対する広報啓発
- 生命保険協会福井県協会と連携した街頭啓発活動
- 金融機関職員に対する投資詐欺等被害防止講習の実施
- 県内4つの信用金庫と連携した投資詐欺被害防止CMの実施

イ 検挙対策

- 被害実態や犯行手口の一元的な集約、詳細な把握・分析による実態解明の推進
- 暴力団や匿名・流動型犯罪グループなど犯罪組織の関与を視野に入れた取締り
- SNS等のアカウントや暗号資産の口座など犯行ツールに関する捜査及び措置

ウ 活動状況



生命保険協会福井県協会と連携した街頭啓発活動



金融機関による詐欺被害の未然防止
(感謝状贈呈)

7 暴力団等組織犯罪対策

(1) 暴力団対策

ア 検挙状況

検挙人員は28人で、前年同期に比べて2人(6.7%)減少 (単位:人)

	R3	R4	R5	R6.7末
刑法犯	31	26	38	12(-10)
特別法犯	19	27	16	16(+8)
合計	50	53	54	28(-2)

イ 山口組分裂に伴う諸対策

- 「六代目山口組・神戸山口組対立抗争集中取締本部」を継続し、暴力団犯罪の取締りと暴力団関係箇所の警戒活動を徹底(H29.4~)

ウ 暴力団排除活動の取組

- 県内の事業活動等における暴力団等からの不当な要求行為等を防止するための支援の実施など、暴力団等の資金源を封圧するための諸対策を推進
- 県暴力追放センターをはじめとする関係機関との連携を一層強化し、より効果的な暴力団排除活動を戦略的に推進



民事介入暴力等対策研究会



暴力団離脱・社会復帰対策協議会

(2) 薬物犯罪対策

ア 検挙状況

検挙人員は57人で、前年同期に比べて15人(35.7%)増加 (単位:人)

	R3	R4	R5	R6.7末
覚醒剤	29	43	50	30(+7)
大麻	29	27	28	23(+7)
その他	11	7	5	4(+1)
合計	69	77	83	57(+15)

イ 取締り

若年層グループによる大麻取締法違反(譲り受け未遂)事件(R6.7)

覚醒剤取締法違反(所持)事件(R6.7)



押収した大麻リキッド



押収した覚醒剤

ウ 主な施策

若年層による薬物犯罪の防止に向け、サイバーパトロールによる違法・有害情報の排除、小・中・高校や大学生、企業に対する薬物乱用防止講座、各種イベント等での広報啓発活動等を推進



防犯ボランティアと連携した
薬物乱用防止に向けた広報啓発活動



薬物乱用防止指導員に対する講演

8 来日外国人犯罪の対策

(1) 検挙状況

検挙件数は79件で、前年同期に比べて27件(51.9%)増加

検挙人員は24人で、前年同期に比べて6人(20.0%)減少

	R3	R4	R5	R6.7 末
検挙件数 (件)	160	97	82	79(+27)
刑法犯	125	66	54	64(+22)
特別法犯	35	31	28	15(+5)
検挙人員 (人)	86	63	50	24(-6)
刑法犯	59	36	32	17(-5)
特別法犯	27	27	18	7(-1)

(2) 主な施策

- 外国人留学生や技能実習生に対する防犯講習・法令指導の実施
- ヤード(中古自動車、船舶の買取・輸出)に対する立入り調査の実施

9 サイバー犯罪対策

(1) サイバー犯罪関連の相談受案件数

相談件数は1,606件で、前年同期に比べて556件(53.0%)増加 (単位:件)

相談区分	R3	R4	R5	R6.7 末
詐欺・悪質商法	996	956	1,127	916(+374)
違法・有害情報	98	58	55	35(+8)
名誉棄損・誹謗中傷	118	89	69	88(+64)
不正アクセス、コンピュータ・ウイルス	239	406	232	138(+36)
迷惑メール	122	242	292	152(-32)
クレジットカード番号盗取等	177	202	219	187(+69)
その他	151	189	78	90(+37)
合計	1,901	2,142	2,072	1,606(+556)

(2) 検挙状況

検挙件数は35件で、前年同期に比べて3件(9.4%)増加 (単位:件)

	R3	R4	R5	R6.7 末
不正アクセス禁止法違反	2	3	1	2(+2)
コンピュータ・電磁的記録対象犯罪	4	12	3	0(±0)
ネットワーク利用犯罪	52	52	66	33(+1)
詐欺	13	24	30	13(-3)
児童買春・児童ポルノ法違反	3	3	2	4(+3)
県青少年愛護条例違反	4	3	3	0(-1)
わいせつ物頒布等	4	0	0	0(±0)
その他	28	22	31	16(+2)
合計	58	67	70	35(+3)

※ コンピュータ・電磁的記録対象犯罪とは、刑法に規定されているコンピュータ又は電磁的記録を対象とした犯罪をいう。

(3) 主な施策

- 関係機関・団体と連携し、県内企業を対象としたサイバーセキュリティフォーラムを開催
- サイバー防犯ボランティアと連携し、県内高校生を対象としたSNS利用やオンラインカジノの危険性等を周知するための広報啓発活動を実施



サイバーセキュリティフォーラム in 鯖江



サイバー防犯ボランティアと連携した
広報啓発活動

10 交通事故から県民を守る対策

(1) 交通事故の発生状況

ア 交通死亡事故の特徴等

- 死者のうち、高齢者が占める割合が高い 12人中11人(91.7%)
- 歩行中、自転車乗用中の死者が半数を占める 12人中7人(58.3%)
- 歩行中、自転車乗用中死者全てが高齢者 7人中7人(100%)
- 高齢運転者が第1当事者となる事故が多い 12件中5件(41.7%)

【交通事故発生状況】

	R3	R4	R5	R6.7末
総事故件数(件)	19,811	20,366	21,582	12,118(+130)
人身事故件数(件)	912	939	986	520(-10)
死者数(人)	26	27	20	12(+5)
傷者数(人)	1,029	1,063	1,133	600(-7)
重傷者数(人)	176	191	200	118(+3)
物損事故件数(件)	18,899	19,427	20,596	11,598(+140)

※ 全国の交通事故死者数(R6.7末)は1,409人で、前年同期に比べて8人減少

【年齢層別・当事者別死者数（R6.7 末）】

(単位：人)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29 歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
30 歳代	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
40 歳代	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
50 歳代	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
60～64 歳	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
65 歳以上	4	0	0	4	2	5	0	11(+ 5)
75 歳未満	3	0	0	3	1	0	0	4(+ 2)
75 歳以上	1	0	0	1	1	5	0	7(+ 3)
合計	5	0	0	5	2	5	0	12(+ 5)

イ 主な施策

- 交通事故発生実態等に即した交通指導取締り
- 関係機関・団体と連携した広報啓発活動
- 学校、公民館等における交通安全教育

(2) 高齢交通弱者対策

ア 高齢者（65 歳以上）が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者は 11 人で、前年同期に比べて 5 人増加

高齢者の死者数は全体の約 9 割を超える（12 人中 11 人）

	R3	R4	R5	R6.7 末
全死者数（人）	26	27	20	12(+ 5)
高齢死者数（人）	16	20	14	11(+ 5)
構成率（％）	61.5	74.1	70.0	91.7(+6.0)

イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者（歩行中・自転車乗用中）の死者は 7 人で、前年同期に比べて 5 人増加

(単位：人)

	R3	R4	R5	R6.7 末
高齢交通弱者の死者数	10	12	4	7(+ 5)
歩行中	8[7]	9[8]	3[3]	5[5](+3[+3])
夜間歩行中	7[6]	3[2]	1[1]	2[2](+1[+1])
自転車乗用中	2	3	1	2(+ 2)

※[]は反射材非着用

ウ 主な施策

- 高齢者を対象とした交通安全教室の開催
- 各種警察活動を通じた反射材の直接貼付活動
- 自転車利用者に対する交通安全啓発活動



高齢者を対象とした交通安全教室



自転車利用者に対する交通安全啓発活動

(3) 高齢運転者対策

ア 高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故

全ての交通死亡事故のうち、高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故は5件（前年同期比+1件）で、全体の約4割（41.7%）を占める。

（単位：件）

	R3	R4	R5	R6.7末
交通死亡事故件数	25	26	20	12(+5)
高齢運転者が第1当	10	13	10	5(+1)

イ 年齢層別・当事者別死亡事故件数（第1当事者）（R6.7末）

（単位：件）

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
30歳代	3	0	0	3	0	0	0	3(+2)
40歳代	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
50歳代	2	0	0	2	0	0	0	2(+1)
60～64歳	1	0	0	1	0	0	0	1(+1)
65歳以上	4	0	0	4	1	0	0	5(+1)
75歳未満	3	0	0	3	0	0	0	3(+2)
75歳以上	1	0	0	1	1	0	0	2(-1)
合計	11	0	0	11	1	0	0	12(+5)

ウ 主な施策

- 高齢者宅訪問による交通安全指導
- 公民館等における免許証自主返納出張窓口の開設等、自主返納しやすい環境の整備に向けた取組
- 運転技能自動評価システム（通称オブジェ）を活用した交通安全指導



自主返納出張窓口の開設



オブジェを活用した交通安全指導

(4) 悪質・危険運転者対策

ア 飲酒運転を伴う人身事故（自動車及び一般原動機付自転車）

飲酒運転を伴う人身事故は4件で、前年同期に比べて6件減少（-60%）、死亡事故の発生なし

	R3	R4	R5	R6.7 末
人身事故件数（件）	13	9	20	4(- 6)
死亡事故件数（件）	3	1	0	0(±0)
構成率（%）	23.1	11.1	0	0(-)

イ 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は101件で、前年同期に比べて20件増加（+24.7%）

	R3	R4	R5	R6.7 末
検挙件数（件）	155	119	175	101(+20)

ウ 速度違反の取締り

速度違反の検挙件数は3,217件で、前年同期に比べて3,640件減少（-53.1%）

	R3	R4	R5	R6.7 末
検挙件数（件）	12,502	10,741	9,665	3,217 (-3,640)

エ 横断歩行者妨害違反の取締り

横断歩行者妨害違反の検挙件数は1,148件で、前年同期に比べて523件増加(+83.7%)

	R3	R4	R5	R6.7 末
検挙件数（件）	1,988	858	1,216	1,148(+523)

オ 主な施策

- 飲酒運転取締り検問の実施と広報啓発活動の推進
- 生活道路における可搬式速度違反自動取締装置等を活用した速度取締り
- 取締重点横断歩道を中心とした横断歩行者妨害違反の取締り



繁華街における飲酒検問



生活道路における取締り